

ものづくりは、人づくりから

東京都立荒川工業高校長

前畑 光男



本校は、昭和23年東京都立上野新制高等学校三河島分校（定時制課程）として創立し、昭和38年東京都立荒川工業高等学校に校名変更された歴史のある専門高校です。

全日制課程は、電気科、電子科、情報技術科、定時制課程は、電気科、電子科で構成されています。

本校には、模擬送電線路実習装置、地上デジタル放送技術実習システム、3Dプリンタ新しい時代に向けた実習設備等が設置され、生徒は、全定間わず、ものづくりに関わる最新の技能・技術を習得しながら次世代の産業社会を支える若者として、日々勉学に励んでいます。

特に、第一種電気工事士をはじめ17の検定や資格検査に多くの生徒がチャレンジし、検定合格や資格取得により専門性を獲得しています。

また、地域との連携では、ここ、ものづくりの街「荒川」の強みを生かし、企業とのインターシップを全日制課程の第2学年全生徒が取り組むとともに、定時制課程では、「空飛ぶ車椅子」事業として、不要になった車椅子を修理・整備し、アジア地域で必要とする子供たちへ提供しています。

さらには、「ものづくりは人づくりから」を教育理念に、どのような時代になろうとも、決して変わることはない、社会人として、大人として、確実に備えるべき「人間力」の育成を図っております。挨拶から始まるコミュニケーションや、第一印象を大切にす清潔感ある頭髪や身だしなみの指導を徹底していること、これらすべては、本校に人材を求める民間企業の方々から「荒工ブランド」として、高い評価を得ております。

まさに、先生方がチーム一丸となって生徒に寄り添い、真剣に向き合うことで、ものづくりに関わる荒工生としての「人づくり」に全力を注いでいます。

このように、本校は、専門的な技能・技術の習得と併せて、生徒一人一人の人間力を高めていくことを大切にし、ついでには、社会をたくましく生きる力のへと導き、広く都民の期待に応えていく学校です。